



上荻野・はさ掛け (撮影 小林会員)

令和4年11月号 Vol. 223
(2022年)

発行：令和4年11月8日

あつぎ観光ボランティアガイド協会

ホームページ <http://atugikanvola.sakura.ne.jp>

メールアドレス atugikanvola@yahoo.co.jp

発行責任者 会長 森島 誠 編集担当者 澤田 正弘

《あつぎの文化財一般公開》

行事区分：行事支援

日 時：10月10日(月・祝日) 12日(水) 09:30~15:00

場 所：妻田薬師

支 援 者：10日 7名、12日 7名

10月10日(1日目)

前日からの雨は降り止みましたが、いつ降ってもおかしくない空模様でした。

薬師如来は寅年にご開帳します。12年前の2010年(平成22年)は全開帳(60年毎)の年で、私はこの年も支援しましたので12年ぶりになります。開始前に文化財保護課の方の受付設営を手伝い、10時に表受付、裏受付、境内案内、薬師堂の4ヶ所に分されました。

今年は半開帳で、ご本尊が入っている厨子の扉を開けるだけ、全開帳は厨子から出して前に安置するそうです。坐像は全体が見え難く「ご本尊が良く見えない」と拝観者の方々も口々に言われていましたので半開帳の意味に納得しました。

企画ガイドの「妻田薬師ご開帳と厚木の巡礼道を辿る」が雨天で中止になり、本来ならそちらに参加する予定だった方や、会員も4~5人拝観に訪れました。



稚児行列



薬師如来

薬師如来の説明で、1569年の武田と北条の三増合戦で寺も仏像も焼失したと話しましたが、現在NHKの大河ドラマ「鎌倉殿の13人」が放映されており北条一族が頻繁に出てきます。その北条と勘違いされている方がいて途中でそれに気づきました。それからはドラマの北条とは違い、時代も異なると説明しました。

昼近くに法要が始まるのでお堂から一時出るように言われ、その間を利用して昼食を摂りました。昼食中に雨が降り出しました。

稚児行列は中止かな？と心配しましたが幸いにも雨は止み、行列が境内に入ってくると堂内の拝観者は一斉に外に出て行列を見に行きました。（寺田 記）

裏受付を担当しました。当日は天候回復予定でしたが午後から急に雨天となりました。テントも無く配布資料などの濡れ対策に、文化財保護課の方がビニール袋を開き、急場を凌ぎました。私は雨具を準備していましたが幸いでした。帰りには天候が回復し、折り畳み傘を会場に置き忘れました。12日に森島会長にお世話になり無事回収できました。

（高橋 記）

10月12日（2日目）

10日同様に設営を手伝い、時間になるとそれぞれの担当場所に分かれて待機しました。10日は祭日で混雑を避けたのでしょうか、この日は足元がおぼつかない高齢の方が家族の介添えを受けながら拝観に来られる姿を何度も見受けました。

御本尊の前に「みかん・饅頭・水を浸し葉っぱを載せた小さな容器」の3点セットのお供え物が円を描いて無数に置かれていました。

10日の日に拝観者から尋ねられても答えられず、保存会の方にもお尋ねましたが「私達は飾るだけで意味は解らない」と言う返事でした。

この日、住職にお尋ねするとわざわざ資料を取りに戻り、写真や図等を見せながら「これは曼荼羅です」と詳しく解説して頂きました。会員も数人拝観に来ました。会員からお菓子の差し入れがありました。

午後には教育長も拝観に来られ森島会長が解説して廻りました。十二支を描いた天井板の質問を何度も受けましたがデータが無く回答できません。薬師堂の中では突出して綺麗です。「新しいので文化財としての資料が手元にありません」と説明しました。

（寺田 記）

裏受付を午前中担当しました。露店の車両の出入りが多くその安全の確認が主な仕事になっていました。受付の場所も露店に割り振られており机の撤収になり人数確認だけとなりました。この点は事前の連絡不足と思います。露店の割り振り方、作り方、それぞれの車両の様子を見るのは面白かったです。久しぶりの出店で準備から活気が有りました。小学校の通学路が境内を通っているため、この日は露店の中を通ることになると聞いて夕方からさぞや賑わった事と思います。（小林 記）

縁日当日は平日でもあり午前中の見学者はさほど多くありませんでしたが、境内では午後3時からの檀家さん達による催し物や5時から素人演芸会が予定され、舞台や客席等の設置作業で薬師堂保存会の人たちが忙しく立ち回られ、また午後には屋台も60~70軒は立ち並び始めました。ガイドは本堂内に限られたようで、初日と比べて説明機会は少なかったように思いました。（山田 記）



曼荼羅の説明

行事区分：「合同研修交流会」（主催：県西観光ボランティアガイドの会）

日 時：10月14日（金）9：30～11：45 代表者会議 13：30～15：00

場 所：伊勢原市

参加者：会員3名

会場案内に合同研修交流会担当の「いせはら観光ボランティアガイド&ウォーク協会」の会員の方が、伊勢原駅より看板等を持参し対応されました。「伊勢原村開村400年記念誌」（伊勢原中央ロータリークラブ発行）を基に、伊勢原シティープラザ前で、県西観光ボランティア代表者の開会挨拶がありました。8団体26名が5班編成になり、順次関連施設7か所をガイドの説明を聞きながら見学しました。



伊勢原大神宮神楽殿甲冑隊

関連施設は、伊勢原駅から大山側に約600mの両側に立ち並び開村400年の中心部で
①高札場跡：幕府や領主が決めた法度や掟書などを木の板札に書き、人目の引くように高く掲げておく場所。②豊田屋：大正元年創業。平塚豊田出身者の日用品販売店。③伊勢原の火伏不動堂：文化13年伊勢原に大火が発生し火はここでストップし以後崇敬されている。④伊勢原駅：昭和2年小田急電鉄開業。⑤大宝寺：浄土宗本尊阿弥陀如来、室町時代作の千手観音。⑥大福寺：樹齢400年開村当時のクスノキ有り。平成16年の台風で枝が折れ当時の勇姿はない。⑦大神宮：開村以来村の鎮守として創建されたと伝えられている。

大神宮へ到着後参拝し、神宮遥拝所神楽殿で虚無僧の尺八演奏予定でしたが都合により「いせはら手作り甲冑隊」による、太田道灌など演技の披露を見学し解散しました。見学コースには400年前の面影は失なわれており、大福寺のクスノキだけとのことでした。11時頃から小雨が降り出し、雨具の出番となりました。（高橋 記）

午後の代表者会議は、伊勢原商工会館で開催され、本日の内容についてや各団体の課題など意見交換を行った。また来年度以降の担当団体は、令和5年は秦野、令和6年はあつぎで各担当団体が特徴を生かした自由な計画で実施することを確認した。

（森島誠 記）



特別編集会議 < 座談会 >

11月号特集記事用として、近年入会された6名の会員に集まっただき「あつぎ観ボラの明日を考える」というテーマで座談会を開催しました。自己紹介のあと自由に発言をしていただきました。あつぎ観ボラの現状把握や将来の活動計画策定の参考になると思われる意見がたくさん出ました。

（文責・編集担当者）

テーマ「あつぎ観ボラの明日を考える」

日時：10月17日（月）
9：00～12：00

場所：あつぎ市民交流プラザ
ルーム702

出席者：

成田 和男 （2019年10月入会）

毛利 八寿世 （2020年4月入会）

小林 直樹 （2021年4月入会）

重富 聡子 （2021年4月入会）

高橋 健一 （2022年4月入会）

石川 豊 （2022年4月入会）



田頭 文昭 （アドバイザー）

澤田 正弘 （コーディネーター）

Q1 入会後うまく溶け込めましたか

毛利：入会時はコロナ禍で定例会が中止となる中で、勉強会に参加して講師の方へ質問し、そのフィードバックがあったりしました。また自分で名所を色々歩いたりして、なんとなくあつぎ観ボラのイメージが出来てきたので孤立する感じはありませんでした。



毛利さん

小林：定例会に参加してその話の内容から、興味がある事を調べたりする中で、自分がやらなければならない事がわかり、勉強するきっかけができました。新しい事を発見する事で面白くなってきました。



高橋さん

石川：協会ニュースに西出さんの八海山単独登山の記事があり、自分も入口まで行ったことがあったので、本人と話をするきっかけが出来ました。

高橋：会員の誰が何を得意としているのか、何が詳しいのかが知りたかった。それによりコミュニケーションがとれると思います。

重富：ホームページのお手伝いをする中で、先輩とお話しができています。それが無かったら孤立したのかも知れません。

Q2 ガイドをやってみてどうでしたか。何か観ボラとしてやって欲しい事は。

小林：ガイドをひき受けた事でインターネットや図書館で調べたりしました。先輩ガイドはメモを見ずにガイドをしています、経験を積まないとうまくガイドが出来ないことを実感しました。

田頭：知識、しゃべり方、間を大切にする、だらだら話さない、お客様の顔を見る事で、お客様がどう思っているかをつかむ。箇条書き的な話し方（①…、②…、③…）をすると話が見えやすくなります。聞きやすい声のために発声練習をするのもひとつです。



小林さん

石川：活動に同行した元会員から、ガイドの際の立ち位置等、ガイドのスキルに対するアドバイスをいただきました。ガイドの基本的な姿勢についてさらに知りたいと思います。個々人の個性を出してもいいとは思いますが、評価はお客様がするのだと思います。お客さま参加型のガイドもひとつの手法ではないでしょうか。

毛利：3月の八菅山ハイキングでお花のガイドをしました。前もって何度も下見に行きメモを準備しました。あとでお客様から「彼女とても頑張っていた」と言ってもらえてやりがいを感じました。班のリーダーが先に行ってしまう、お花ガイドと離れてしまう問題がありました。

田頭：以前おられた会員や、女性会員はお花に詳しいですが、みんなが歴史の他にお花の勉強をする必要があります。

高橋：グーグルに花の名前を調べるソフトがあります。写真を撮る必要がありません。

小林：ガイドをやってみて自分の出来はどうだったのかフォローが必要だと思います。

Q3 入会して楽しかった事、つまらなかった事、今後の新会員へのアドバイスなど。

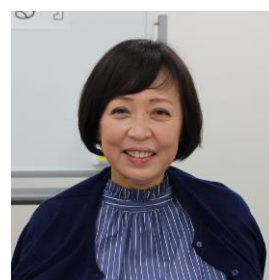
毛利：地図で調べて、お地蔵さまやおやしろを学んで自分のものになるのは楽しいです。

小林：散歩していても色々なものがあり調べるきっかけが出来ました。

重富：入会しても勤務があるのでなかなかガイドが出来ない状態で心苦しいですが、入込調査、企画ガイドの下見、勉強会へは参加したいと思います。

高橋：会員には色々な経験者がいるが、今日の座談会は皆さん発言が多い（普通は発言が少ない）。この先この会は有望であると感じました。

石川：個人としてはとにかく楽しい。観ボラは個人の善意と個性と継続力が素晴らしいと思います。



重富さん

Q4 観ボラは将来どのような活動を行なったらよいですか。組織体制への要望は。



石川さん

重富：新人が急にガイドをやりますというにはハードルが高いと思います。新人だけの会員研修でテーマを決めて企画する。そこに先輩が関わりフォローすると良いのではないのでしょうか。

石川：公民館で観ボラ会員ですと名乗ると協力的でした。名刺があると自分たちのことを説明しやすいと思います。

毛利：観ボラの紙媒体のパンフレットが作れないのでしょうか。ホームページもありますが、紙による観ボラのPRが出来ると良いと思います。

重富：若い人は体験を求める傾向があります。ガイドの最後に体験を入れられないのでしょうか。（例えばお花を見たコースの最後に押し花づくり体験を入れる等）

成田：今、岸邸に勤務しながらガイドを行っています。観ボラでも移動しない定点ガイドが出来ると良いです。

毛利：定点ガイドを置けないのでしょうか。高齢化対策にもなるのではないのでしょうか。

石川：企画ガイドの際、ガイド役の会員が足りなくなる時はどうなるのでしょうか？



成田さん

田頭：これまで基本はメインのガイド+サブでの実施です。サブが一部を担う形をとっています。お客様の立場では人が変わることで声が聞き取りにくい等の意見が上がるのが考えられます。

高橋：時代の流れを見ると IT 社会の現代です、色々工夫が出来るのではないのでしょうか？（ペーパース化、ズーム会議等）もちろん大切なことは対面で行うべきですが。

小林：厚木市内にはウォーキングの会、山登りの会、セラピーの会など、色々な団体があります。あつぎ観ボラでも山登りをしますが、狙いがはっきりしない。寺社等の解説があることが特長である？とか。参加者のためにも明確にした方がいいのではないのでしょうか。

田頭：神社仏閣は1人で行ってもよくわからない。観ボラのガイド解説がある事で知る事が出来ます。ハイキングの場合、特に女性は1人で行くとこわい、事故や熊・イノシシが出てくる事もあります。観ボラが連れて行ってくれば安心感があります。また資料を後から読んでよく解ったという反響もありました。

—色々なご意見有難うございました—

最近の活動

日付	場所	内容	参加者
10月 8日	アミューあつぎ	定例会	会員 21名
10月 10日	妻田薬師	行事支援 「文化財一般公開」	会員 7名
10月 12日	妻田薬師	行事支援 「文化財一般公開」	会員 7名
10月 14日	伊勢原市	「合同研修交流会」 県西観光ボランティアガイドの会	会員 3名
10月 15日	厚木消防署 玉川分署 2階	ガイド配布資料作成・読み合わせ 「江戸庶民の大山詣り」	会員 5名
10月 17日	アミューあつぎ	特別編集会議 「座談会」	会員 8名
10月 21日	大山	企画ガイド下見 「江戸庶民の大山詣り」	会員 7名
10月 28日	大山	企画ガイド 「江戸庶民の大山詣り」	会員 8名
11月 3日	相川公民館	編集会議	会員 3名

編集後記

10月10日に予定していた企画ガイド「厚木の巡礼道を辿る」は26名の参加申し込みがありましたが雨天のため中止となり残念でした。11月号特集記事として「座談会」の内容を掲載しました。新型コロナの感染が始まった年以降に入会した会員は、企画ガイド中止、懇親行事も中止、飲みニュケーションも出来ない環境下にありながら、散歩中に見つけた石造物や、市内の名所から独自に学習テーマを決めて、自己研鑽に励んできたとの事で頭が下がります。今年度から企画ガイドが始まってきました。是非先輩ガイドと一緒に、ガイド体験を行ってください。

編集委員 阿部 啓冊 小林 直樹 澤田 正弘 前澤 宣子